



⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
コンピュータの基礎演習	1	○	○	○	○						
統計分析の基礎	1	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビッグデータ、AI「コンピュータの基礎演習」(2回目)</li> <li>・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化「コンピュータの基礎演習」(2回目)</li> <li>・人間の知的活動とAIの関係性「コンピュータの基礎演習」(2回目)</li> <li>・データを起点としたものの方「統計分析の基礎」(8~12回)</li> </ul>
	1-6 <ul style="list-style-type: none"> <li>・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)「コンピュータの基礎演習」(2回目)</li> </ul>
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査データなど「コンピュータの基礎演習」(11回目)</li> <li>・構造化データ、非構造化データ「統計分析の基礎」(8~14回)</li> <li>・データのオープン化(オープンデータ)「コンピュータの基礎演習」(11回目)</li> </ul>
	1-3 <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)「コンピュータの基礎演習」(2回目)</li> <li>・仮説検証、知識発見、原因究明、判断支援「統計分析の基礎」(8~14回)</li> </ul>
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ解析: 予測「統計分析の基礎」(6~7回目)</li> <li>・データ可視化: 関係性の可視化「統計分析の基礎」(3~7回目)</li> </ul>
	1-5 <ul style="list-style-type: none"> <li>・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)「統計分析の基礎」(10~15回)</li> <li>・サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例紹介「コンピュータの基礎演習」(2回目)</li> </ul>

(4) 活用に応じた様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人情報保護「コンピュータの基礎演習」(2回目)</li> <li>データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「コンピュータの基礎演習」(3回目)</li> <li>データ・AI活用における負の事例紹介「コンピュータの基礎演習」(2回目)</li> </ul>
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取「コンピュータの基礎演習」(3回目)</li> <li>情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「コンピュータの基礎演習」(3回目)</li> </ul>
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>データの種類(量的変数、質的変数)「コンピュータの基礎演習」(8回目)「統計分析の基礎」(2~3回目)</li> <li>データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「統計分析の基礎」(2~5回目)</li> <li>代表値の性質の違い(実社会では平均値=最頻値でないことが多い)「統計分析の基礎」(2~3回目)</li> <li>データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)「コンピュータの基礎演習」(10回目)「統計分析の基礎」(2~3回目)</li> <li>相関と因果(相関係数、疑似相関、交絡)「統計分析の基礎」(6~7回目)</li> <li>クロス集計表、分割表「統計分析の基礎」(4~5回目)</li> <li>統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない)「統計分析の基礎」(10~15回目)</li> </ul>
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>データ表現(棒グラフ、折線グラフ)「コンピュータの基礎演習」(11回目)「統計分析の基礎」(4~5回目)</li> <li>データの図表表現(チャート化)「コンピュータの基礎演習」(5回目、11回目)「統計分析の基礎」(4~7回目)</li> <li>不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素)「コンピュータの基礎演習」(10回目)「統計分析の基礎」(4~7回目)</li> </ul>
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> <li>データの集計(和、平均)「コンピュータの基礎演習」(10回目)「統計分析の基礎」(2~3回目)</li> <li>データの並び替え、ランキング「コンピュータの基礎演習」(10回目)</li> <li>データ解析ツール(スプレッドシート)「コンピュータの基礎演習」(10回目)「統計分析の基礎」(2~7回目)</li> </ul>

⑩ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- AIの仕組みを理解し、適切に活用するための知識や能力
- データ活用の有用性を理解し、適切に活用するための知識や能力
- セキュリティの観点から、AIやデータサービスに対する適切な態度

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容 ※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム改訂版」(2024年2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に伺うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容
「コンピュータの基礎演習」(2回目)にてAIの仕組みと発達について機械学習やビッグデータを交えて解説し、続いて提供されるAIサービスを複数挙げて、学生自身にも利用させる。その時にAIから提示された結果について学生自身に検証させることでAIやAIを用いたサービスについて理解を深め、またAIに依存しすぎる危険性やAIが提示した情報を検証する必要性を体験させることで理解を深める。



⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
コンピュータの基礎演習	1	○	○	○	○						
統計分析の基礎	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビッグデータ、AI「コンピュータの基礎演習」(2回目)</li> <li>・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化「コンピュータの基礎演習」(2回目)</li> <li>・人間の知的活動とAIの関係性「コンピュータの基礎演習」(2回目)</li> <li>・データを起点としたものの見方「基礎統計法」(1回目)</li> </ul>
	1-6 <ul style="list-style-type: none"> <li>・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)「コンピュータの基礎演習」(2回目)</li> </ul>
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査データなど「コンピュータの基礎演習」(11回目)</li> <li>・データのオープン化(オープンデータ)「コンピュータの基礎演習」(11回目)</li> </ul>
	1-3 <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)「コンピュータの基礎演習」(2回目)</li> </ul>
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ解析・予測「基礎統計法」(4~5回目、7~11回目)</li> <li>・データ可視化:関係性の可視化「基礎統計法」(4~5回目、12~15回目)</li> </ul>
	1-5 <ul style="list-style-type: none"> <li>・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)「基礎統計法」(1回目)</li> <li>・サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「コンピュータの基礎演習」(2回目)</li> </ul>

(4) 活用に応じた様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人情報保護「コンピュータの基礎演習」(2回目)</li> <li>データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「コンピュータの基礎演習」(3回目)</li> <li>データ・AI活用における負の事例紹介「コンピュータの基礎演習」(2回目)</li> </ul>
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取「コンピュータの基礎演習」(3回目)</li> <li>情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「コンピュータの基礎演習」(3回目)</li> </ul>
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>データの種類(量的変数、質的変数)「コンピュータの基礎演習」(8回目)「基礎統計法」(1回目)</li> <li>データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「基礎統計法」(1~3回目)</li> <li>代表値の性質の違い(実社会では平均値=最頻値でないことが多い)「基礎統計法」(1~2回目)</li> <li>データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)「コンピュータの基礎演習」(10回目)「基礎統計法」(3回目)</li> <li>相関と因果(相関係数、疑似相関、交絡)「基礎統計法」(4~5回目)</li> <li>クロス集計表、分割表「基礎統計法」(5回目)</li> <li>統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない)「基礎統計法」(3~11回目)</li> </ul>
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>データ表現(棒グラフ、折線グラフ)「コンピュータの基礎演習」(11回目)「基礎統計法」(12回目)</li> <li>データの図表表現(チャート化)「コンピュータの基礎演習」(5回目、11回目)「基礎統計法」(12~15回目)</li> <li>不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素)「コンピュータの基礎演習」(10回目)「基礎統計法」(12~15回目)</li> </ul>
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> <li>データの集計(和、平均)「コンピュータの基礎演習」(10回目)「基礎統計法」(1回目)</li> <li>データの並び替え、ランキング「コンピュータの基礎演習」(10回目)</li> <li>データ解析ツール(スプレッドシート)「コンピュータの基礎演習」(10回目)「基礎統計法」(12~15回目)</li> </ul>

⑩ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- AIの仕組みを理解し、適切に活用するための知識や能力
- データ活用の有用性を理解し、適切に活用するための知識や能力
- セキュリティの観点から、AIやデータサービスに対する適切な態度

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容 ※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム改訂版」(2024年2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に何うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容
「コンピュータの基礎演習」(2回目)にて生成AIの仕組みと発達について機械学習やビッグデータを交えて解説している。具体的には、提供される生成AIサービスを複数挙げて、学生自身に授業内で課題を用いて利用させている。その時に生成AIから提示された結果について学生自身に真偽や妥当性を考えさせることで、生成AIやそれを用いた社会サービスについての理解を深めている。さらに生成AIに依存しすぎる危険性や生成AIが提示した情報を検証する必要性を体験から学ぶ授業を展開している。

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度  年度

②大学等全体の男女別学生数 男性  人 女性  人 ( 合計  人 )

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
看護学部	362	90	360	90	90	86	86	95	95							271	75%
人間福祉学部	116	70	220	6	6	6	6									12	5%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合計	478	160	580	96	96	92	92	95	95	0	0	0	0	0	0	283	49%

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

- ① 全学の教員数 (常勤)  人 (非常勤)  人
- ② プログラムの授業を教えている教員数  人
- ③ プログラムの運営責任者  
 (責任者名)  (役職名)

- ④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)  
  
 (責任者名)  (役職名)

- ⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

- ⑥ 体制の目的
- <基盤教育センター>  
 社会に対する理解を深め、幅広い視野と豊かな教養を培い、ヒューマンケアを学ぶ上で礎となる素養を身につけるための基礎力の育成を全学的に実施する基盤教育の運営と管理を行い、推進させる目的で本センターは設置された。本学では、看護学部、人間福祉学部とも、ディプロマ・ポリシー等においてケア課題を発見し課題を解決できる、実践できる、問題解決力の高い人材の育成を掲げている。そのために、専門課程には「疫学・保健統計」「看護情報論」(看護学部)、「統計学」「データ解析法」「ヒューマンケア情報論」(人間福祉学部)等のデータ関連科目を配置している。本プログラムにおいて基盤科目に配置したリテラシーレベルの数理・情報科目はこれらの専門科目と連動したものとして位置づけられてる。したがって、本プログラムは、専門科目の運営・管理を担う各学部の教務委員長を随時(必要に応じ招集する)メンバーに加えて、教務委員会と連携、連動しながら教育の質の向上と改善、進化を図ることのできる体制となっている。

- ⑦ 具体的な構成員
- <基盤教育センター>

  - ・佐藤嘉夫(佐久大学人間福祉学部教授、基盤教育センター長)
  - ・下村幸二(佐久大学人間福祉学部教授)
  - ・朴 相俊(佐久大学看護学部教授)
  - ・中嶋智子(佐久大学看護学部准教授)
  - ・長谷川武史(佐久大学人間福祉学部准教授)
  - ・関谷龍子(佐久大学人間福祉学部准教授)
  - ・三池克明(佐久大学信州短期大学部准教授、学生総合支援センター教務課係)
  - ・倉田郁也(佐久大学信州短期大学部准教授、カウンセリング室員)
  - ・前川裕子(佐久大学学生総合支援センター教務係職員)

<教務委員会>

  - ・小林睦(佐久大学看護学部准教授、看護学部教務委員長)
  - ・長谷川武史(佐久大学人間福祉学部准教授、人間福祉学部教務委員長)
  - ・前川裕子(学生総合支援センター教務係職員、基盤教育センター兼務)



⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和5年度実績	49%	令和6年度予定	60%	令和7年度予定	80%
令和8年度予定	90%	令和9年度予定	100%	収容定員(名)	580
具体的な計画					
<p>看護学部は、本プログラムの認定に必要な科目をすべて必修としており、履修者数・履修率については確保できている。一方で、人間福祉学部は選択科目が含まれているため、履修者数・履修人数が少ないという現状がある。この課題は、以下の方法で解決を目指している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・履修希望の比較的多い時間帯の時間割の配置や、履修ガイダンスでの科目説明を丁寧に行う。今日の社会ではAIやデータの活用できる人材を求められており、これは保健医療や社会福祉分野においても共通であることを学生に周知する。</li> <li>・人間福祉学部は、令和7年度に学部開設の完成年度を迎えるタイミングで情報教育の強化に着手する。当該科目の必修化の検討とすでに令和5年度地域活性化人材育成事業(SPARC)の主体校として採択を受けているため、他大学と共同して地域や産業界から求められるDXの推進を見据えた情報教育の体制整備をすすめる。</li> </ul>					

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本プログラムを構成する全ての科目は、履修の先行要件等を設けず、全学生が受講可能になるようにカリキュラムを構成している。今後は、履修ガイダンス等で本プログラムの周知をより徹底することを検討している。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

シラバスをWeb配信しており、学生は学内外を問わず、常に自身が所有するスマートフォン等で閲覧できる。また前期・後期開講前に履修ガイダンスを開催しており、そこで本プログラムの目的やメリットを周知徹底することを検討している。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本学は、令和5年度より学生総合支援センター（STIC）を開設した。高校レベルの基礎学力に不安を感じる学生や、さらに学修意欲のある学生に対して、個別に学修支援を提供する「MANABIBA（学び場）」を設けている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

本プログラムを構成する科目担当教員のほとんどは本学の専任教員であり、オフィスアワーに限らず学生からの相談を受け付ける体制にしている。また科目担当教員が授業や会議などで不在の場合は、学生総合支援センター（STIC）が窓口となり、基盤教育センターに属する教職員が対応する体制を構築している。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

基盤教育センター

(責任者名) 佐藤 嘉夫

(役職名) 基盤教育センター長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>本プログラムを所管する基盤教育センターにおいて、各科目の履修状況を定期的に把握している。また、学内のLMSを活用して学生個々の学修状況を経時的に把握できる環境を整えている。履修者には、授業後アンケート(無記名式)で行っており、受講者からの意見を集約しプログラムの改善につなげている。各科目の担当教員から学生へフィードバックも行い、学生教員相互で授業の質を高める努力をしている。看護学部は、すべて必修科目としているため、履修率が高いが、人間福祉学部は、修了要件に選択科目があるため、履修者の増加が伸び悩んでいる。そのため、履修率の向上を図るために履修者の多い時間帯での開講(時間割の考慮)を検討し、学生の数理・データサイエンスAIへの関心を高められるよう工夫してガイダンスを行う。</p>
学修成果	<p>以下の学修成果を達成する教育プログラムを実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・AIの仕組みを理解し、適切に活用するための知識や能力の修得</li> <li>・データ活用の有用性を理解し、適切に活用するための知識や能力の修得</li> <li>・セキュリティの観点から、AIやデータサービスに対する適切な態度を身に付ける</li> </ul> <p>上記の達成度は該当する科目において、レポートなどの課題や期末試験等での総合評価により把握している。また本プログラム受講後に、受講者を対象に本プログラムに対する興味・関心の度合いや、AI・データサイエンス分野に対する興味・関心の度合いをアンケート調査しその結果の推移を把握することを検討している。基盤教育センターでは、外部標準化テスト(PROG)を全学年で実施している。PROGのリテラシー項目には「情報分析力」や「課題発見力」を測定しているものもあり、グラフの読み取りや論理的な分析力について、学年や学部別にその傾向を把握することで、本プログラムの評価・改善に活用している。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>履修者に対して、各科目の授業評価アンケートを実施している。概ね好評価を得ており、自由記述回答では「知らないことを学べた」「難しいけど勉強になった」といったコメントが散見される。このことから理解が高まったと実感する学生は多いと考えられる。プログラム全体に関するアンケート調査の実施については現在検討している。</p>
学生アンケート等を通じた先輩等他の学生への推奨度	<p>現状、授業評価アンケートでは先輩に推奨するかどうかの直接的な質問項目を設けていないため先輩学生への推奨度は不明である。今後、授業評価アンケートに質問を追加するか、あるいは新たなアンケートにて質問するかは検討している。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>履修ガイダンスやオリエンテーションにおいて、「今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けること」の重要性について周知する機会を設ける。また、オープンキャンパス等で入学前の高校生へ向けた本プログラムの周知も高大接続教育ととらえ、入学後の履修者の拡大につなげる。本プログラムの認定後は、その旨を学内外へ積極的に公表・周知する事で履修者数の向上を図る予定である。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <hr/> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <hr/> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>本学は、まだ実施したばかりであり、また調査が不十分であるため、修了者の進路・活躍状況・企業等の評価はいずれも未確定である。今後、修了者、実習先や採用企業等へのヒアリングが必要と思われるが、まだ検討段階である。</p> <hr/> <p>まだ実施したばかりであり、また調査が不十分であるため、修了者の進路・活躍状況・企業等の評価はいずれも未確定の状況にある。修了者、実習先や採用企業等へのヒアリングが必要と思われるが、まだ検討段階である。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>各科目に対し実施している授業評価アンケートでは興味関心の度合いを問う設問を選択回答形式問うており、概ね高い評価を得ていることを確認している。より踏み込んだ本プログラムを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」の理解についての調査やシラバスの充実等については検討段階である。また、本学が位置している長野県佐久圏域には先進的なプレメダル産業も多い。それらの企業でのインターンシップ等を推進することで、これらの理解を深める機会を広げていけるのではと考えている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>開講科目の担当教員は、研究者として数理・データサイエンス・AIに関する知識や技術を活用していることから、これらの分野については継続的に理解を深めている。また得られた知見を踏まえて担当科目の指導に取り組んでおり、一部の教員については教員免許を取得しており教育工学の研究に携わった実績もあるため、学生へわかり易い授業の設計や改善についての知見は高いと考えられる。また開講科目の内容や運営については基盤教育センターで情報収集や助言に取り組む体制を構築している。また、文科省のSPARC事業は、令和5年に信州大学、長野大学とともに大学間連携推進法人（信州アライアンス）が立ち上がり、本プログラムに関わる共同プログラムのさらなる開発についての検討も始まっており、今後、担当教員の交流等も進んでいくと予想している。</p>

コンピュータの基礎演習/Computer Literacy 2023  
年度入学

CF120W

看護学部・人間福祉学部共通科目＞基盤科目/基盤教育科目＞保健師国家試験受験資格取得要件科目  
1年  
1単位 前期  
講義

三池 克明

〔授業の概要〕

大学生や社会人として必要とされる情報収集・活用の基礎能力と倫理観を身につけ、パソコンの基本的な活用方法を学ぶ。また、ビッグデータ時代に求められる課題解決に活用できるデータサイエンスの基礎を学び、社会と情報とのかかわりについて学ぶとともに、情報活用における倫理について習得する。

〔到達目標〕

パソコンやインターネットとの関わり方を学び、情報に対して客観的に考える力を養う。また、大学生や社会人として必要とされるパソコンの基本的な操作方法を身につける。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2、DP 7

〔授業計画〕

- 第 1 回 **学内ネットワークの使用方法和大学メールの使い方**  
PC室の利用方法、LMS(manaba・respon)の使用方法、メール(Microsoft 365)の使用方法
- 第 2 回 **情報のデジタル化とインターネット**  
デジタルとは、インターネットとは、検索エンジンの使用方法
- 第 3 回 **情報セキュリティと情報倫理**  
情報セキュリティとは、情報倫理とは、著作権の利用について、止揚(aufheben)の考え方に基づく安全性の見極め方
- 第 4 回 **ワープロソフトを使った文書作成1：文章の入力**  
日本語入力について、ファイルとフォルダ、Wordで文章入力
- 第 5 回 **ワープロソフトを使った文書作成2：編集と加工**  
文書の加工、印刷・PDF変換などの出力について
- 第 6 回 **ワープロソフトを使った文書作成3：ビジネス文書の作成**  
ビジネス文書の構造、ビジネス文書の作成
- 第 7 回 **ワープロソフトを使った文書作成4：表のデザイン**  
複雑な表の作成、見やすい表のデザイン
- 第 8 回 **表計算ソフトを使った統計処理1：データ入力**  
表計算ソフトとは、Excelでの表デザイン、表計算の基礎
- 第 9 回 **表計算ソフトを使った統計処理2：表計算**  
表計算、相対参照と絶対参照、データの並べ替え
- 第 10 回 **表計算ソフトを使った統計処理3：グラフ描画**  
グラフとは、グラフ作成、他のソフトへの貼り付け

第 11 回 **表計算ソフトを使った統計処理4：オープンデータの活用**

オープンデータとは、e-Statの活用、Excelとの連携

第 12 回 **パソコンを使ったプレゼン1：編集とデザイン**

プレゼンテーションとは、スライド型プレゼンテーションの制作

第 13 回 **パソコンを使ったプレゼン2：アニメーション**

なぜアニメーションをさせるのか、アニメーションの設定、よいプレゼンテーションとは

第 14 回 **パソコンを使ったプレゼン3：オープンキャンパス用プレゼンの制作**

最終課題「オープンキャンパス用プレゼンの制作」について、評価基準について

第 15 回 **パソコンを使ったプレゼン4：オープンキャンパス用プレゼンの完成・提出**

最終課題の制作と提出

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：奥村晴彦、森本尚之著『[改訂第4版] 基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社

〔成績評価の方法・基準〕

授業終了時に提出するコメントシート（30%）

提出した課題（70%）

〔授業時間外学修〕

予習：次回の講義資料を確認し、何が分からないか明らかにしておくこと。

復習：講義資料を用いて学習したことを整理し、理解を深め、活用できるようにすること。

なお、1回の授業について、1時間程度予習復習を行うこと。

〔オフィスアワー〕

9:00～17:30（ただし会議、出張等で不在あり）。事前予約は不要です。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

PC研修指導・DTP制作の請負を年数回程度、19年継続している。また大学のICT部門職員（システム管理、データ分析担当）を計8年経験している。これらの経験を踏まえ、情報機器を十分に活用し短時間で仕上げる方法を解説する。

〔その他履修上の留意事項等〕

とにかく質問する受講生ほど良好な成績を修める傾向があります。何でも良いので声をかけてみましょう。

統計分析の基礎/Basics of Statistical Analysis  
2023年度入学

NF103P

看護学部 > 看護学科 > 基盤科目 > 保健師国家試験受験資格取得要件科目  
1年 後期  
1単位 後期  
演習

朴 相俊

【授業の概要】

統計学の基礎的な知識を学ぶことにより、看護におけるアセスメントや問題解決に応用できるようなデータの収集・整理・処理・判断の仕方の基本を修得する。

【到達目標】

統計分析の基本概念を難解な数式を使わずに、Microsoft Excelを活用することで身に付けていく。また各自でアンケート調査を行い、回答のデータ化、分析、判断の過程を経ることで、統計分析の意義・必要性を実感する。

【学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連】

DP4

【授業計画】

- 第 1 回 統計分析の基礎/Basics of statistical analysis  
オリエンテーション：講師紹介、講義の進め方、成績評価方法、その他  
統計解析の基礎：医療・看護における統計学の役割や活用方法などについて学ぶ
- 第 2 回 統計分析の基礎/Basics of statistical analysis  
「疫学的研究デザインと統計」「データの種類」「代表値、散布度、分布など」  
統計量の算出と表現：各種データの基本的な解析方法について学ぶ
- 第 3 回 統計分析の基礎/Basics of statistical analysis  
「疫学的研究デザインと統計」「データの種類」「代表値、散布度、分布など」  
統計量の算出と表現：各種データの基本的な解析方法について学ぶ
- 第 4 回 統計分析の基礎/Basics of statistical analysis  
「書式や数式、関数」「度数分布表とヒストグラム」「クロス集計」  
統計的検定①：2変数の関連を検討する基礎的方法を学ぶ I  
「平均値の差の検定（t検定）」「ピボットテーブルによるクロス集計表の作成」「クロス集計表、X2検定」
- 第 5 回 統計分析の基礎/Basics of statistical analysis  
「書式や数式、関数」「度数分布表とヒストグラム」「クロス集計」  
統計的検定①：2変数の関連を検討する基礎的方法を学ぶ I  
「平均値の差の検定（t検定）」「ピボットテーブルによるクロス集計表の作成」「クロス集計表、X2検定」
- 第 6 回 統計分析の基礎/Basics of statistical analysis

統計的検定②：2変数の関連を検討する基礎的方法を学ぶ II

「推測統計の基礎」「散布図/相関分析と回帰分析」

- 第 7 回 統計分析の基礎/Basics of statistical analysis  
統計的検定②：2変数の関連を検討する基礎的方法を学ぶ II  
「推測統計の基礎」「散布図/相関分析と回帰分析」
- 第 8 回 統計分析の基礎/Basics of statistical analysis  
調査・研究の概要：アンケート調査の方法について学ぶ
- 第 9 回 統計分析の基礎/Basics of statistical analysis  
調査・研究の概要：アンケート調査の方法について学ぶ
- 第 10 回 統計分析の基礎/Basics of statistical analysis  
「研究について（科学的とは/量的研究・質的研究）」「研究計画立案」「調査票の作成例」「データの加工/分析/評価方法/その他」
- 第 11 回 統計分析の基礎/Basics of statistical analysis  
「研究について（科学的とは/量的研究・質的研究）」「研究計画立案」「調査票の作成例」「データの加工/分析/評価方法/その他」
- 第 12 回 統計分析の基礎/Basics of statistical analysis  
調査・研究の演習：グループワークによる演習の実施  
「研究計画と調査票の作成」「調査の実施（調査票の配布と回収）/分析」「発表資料の作成（パワーポイント使用）」
- 第 13 回 統計分析の基礎/Basics of statistical analysis  
調査・研究の演習：グループワークによる演習の実施  
「研究計画と調査票の作成」「調査の実施（調査票の配布と回収）/分析」「発表資料の作成（パワーポイント使用）」
- 第 14 回 統計分析の基礎/Basics of statistical analysis  
調査・研究の演習：グループワークによる演習の実施  
「研究計画と調査票の作成」「調査の実施（調査票の配布と回収）/分析」「発表資料の作成（パワーポイント使用）」
- 第 15 回 統計分析の基礎/Basics of statistical analysis  
調査結果発表会
- 【テキスト・参考書・参考文献】  
テキスト：このとおりやればすぐできる ナースのためのデータ処理，技術評論社  
【成績評価の方法・基準】  
調査課題に関するレポート（70%）  
授業参加状況（30%）  
【授業時間外学修】  
予習：テキスト及び参考文献を事前に読んでおくこと。後半は授業時間外のグループワークが必要になります。  
\*1回の授業について1時間程度予習復習を行うこと。  
【オフィスアワー】  
授業終了後に教室で質問を受け付ける  
授業日の授業終了後から放課後、授業日以外の日はメール

で受け付ける。

(s-park●saku.ac.jp)

[実務経験のある教員等による授業科目]

[その他履修上の留意事項等]

〔授業の概要〕

この講義では、社会調査などで得られたデータを要約・記述したり統計的に分析したりする際に必要となる、基礎的な統計学的知識を教える。授業では、講義が中心であるが、Excel等を使って統計量を算出するなどの作業も行い、統計学的知識をより深く理解できるようにする。

〔到達目標〕

- 1) データの型に沿って適切な統計的方法を選択できる
- 2) 記述統計（分布の代表値・散布度、相関と回帰、クロス集計）の意味を説明できる
- 3) 標準正規分布表を使いこなせる
- 4) 推測統計（検定、推定）の意味を説明できる
- 5) 検定・推定の手順を理解し、使いこなせる

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP3、DP4

〔授業計画〕

- 第 1 回 統計的方法（統計学）とは何か  
・社会福祉実践活動における統計学の有用性  
・記述統計と推測統計 ・データの型
- 第 2 回 母集団と標本 / 1変数を整理する (①)  
・母集団と標本の関係・標本抽出法（無作為抽出、有意抽出）  
・度数分布表、度数分布図、分布の代表値
- 第 3 回 1変数を整理する (②)  
・分布の散布度（範囲、標準偏差、四分位数、変動係数）
- 第 4 回 2変数の関係をみる (①)  
・量的データ間の関連性をみる（散布図、相関係数、回帰係数）
- 第 5 回 2変数の関係をみる (②)  
・質的データ間の関連性をみる（順位相関、クロス集計、関連係数）
- 第 6 回 正規分布とは  
・正規分布の性質 ・標準正規分布 ・標準化得点(z)と偏差値
- 第 7 回 検定の方法  
・検定の考え方 ・中心極限定理  
・母平均の検定（母分散が既知の場合、未知の場合）
- 第 8 回 平均値の差の検定（対応がない場合）  
・大標本の場合 ・小標本の場合（t検定、Welch検定）
- 第 9 回 平均値の差の検定（対応がある場合）

- ・paired t 検定
- 第 10 回 ノンパラメトリック検定法  
 $\chi^2$  検定
- 第 11 回 推定の方法  
・推定の考え方 ・母平均の区間推定
- 第 12 回 Excelを利用した演習 (①)  
・データファイルの作成と計算式の入力  
・量的データの集計
- 第 13 回 Excelを利用した演習 (②)  
・質的データの集計（度数分布）
- 第 14 回 Excelを利用した演習 (③)  
・2変数間の関係性を調べる
- 第 15 回 Excelを利用した演習 (④)  
・ $\chi^2$  検定 ・平均値の差の検定 ・相関係数の検定

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：中野正孝 著『新版 看護系の統計調査入門』  
真興交易医書出版部

〔成績評価の方法・基準〕

筆記試験（80%）

授業への参加姿勢：リアクションペーパーの記載の有無とその内容（20%）

記載内容については、次回の授業時に

コメントを返す

〔授業時間外学修〕

1回の授業について1時間程度の予習・復習を行うこと

〔オフィスアワー〕

授業終了後に教室で質問を受け付ける

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

〔その他履修上の留意事項等〕

社会福祉の現場では、現実には起きている生活上の問題解決に向けて、さまざまなサービス（事業）を提供していますが、それがどの程度効果的であったのか、常に評価しながら次のサービス提供に繋げていくことが求められています。評価の手段としての統計学的な考え方、データ分析の仕方、結果の解釈の仕方等を身に付けておくことはとても大切なことです。



## 8. 看護学部カリキュラムマップ

### 【カリキュラムマップの使い方】

- ・佐久大学看護学部での4年間のカリキュラム(教育課程)について、全体イメージを把握しよう。
- ・現在の自分の位置(横軸)と、将来の姿(縦軸)を意識し、学びを積み重ねる姿勢を養おう。
- ・自主学习や課外活動などもマップに書き込み、在学中の学びを組み立ててみよう。

履修年次	ディプロマポリシー										単位数					
	2 自律的に学修し続ける態度を身につけている		3 生命を尊重し擁護する責任と役割を自覚することができる		4 看護学の基本的知識と技術を活用し実践の力へと高める努力ができていく		5 国内外の地域特性と文化的多様性を理解し受け入れ貢献する態度を身につけている		6 対人関係の基本として意見や考え・感情を受け取り伝え合うことができる			(DP1,3,4,5,7の達成を通して、さらに充実する)				
4年次							3-4年		保健医療福祉行政論Ⅱ		1					
							医療・ケア英会話		公衆衛生看護学実習		2					
			がん看護論		1		医療・ケア中国語		公衆衛生看護学実習		2					
			看護リスクマネジメント		1		足と健康 応用		多文化看護論Ⅱ		2					
3年次			看護管理論		2		看護総合実習		4		地域生活者交流実習Ⅱ		1			
											公衆衛生看護学活動展開論		2			
											精神看護学実習		2			
											母性看護学実習		2			
											小児看護学実習		2			
											老年看護学実習		2			
											成人看護学実習Ⅱ		2			
											成人看護学実習Ⅰ		2			
											在宅看護論実習		2			
											家族看護論		1			
											精神看護援助論		2			
											母性看護援助論		2			
											小児看護援助論		2			
											老年看護援助論		2			
										成人看護援助論Ⅱ		2				
										在宅看護援助論		2				
										看護情報論		1				
2年次	1-4年															
	ソーシャルワーク入門		2										成人看護援助論Ⅰ		2	
	家族社会学		2										公衆衛生看護学概論		2	
	運動と健康Ⅱ		2										在宅看護概論Ⅱ		1	
	運動と健康Ⅰ		2										在宅看護概論Ⅰ		1	
	契約と社会のルール		1										精神看護学概論		2	
	消費と経済活動		1		2-4年		災害ボランティア		1				母性看護学概論		2	
	芸術学		1										小児看護学概論		2	
	文学		1										老年看護学概論		2	
	ジェンダー論		1		遺伝と健康		2						成人看護学概論		2	
	宇宙と生命の起源		1		看護倫理学		2		リハビリテーション看護論		1		2-4年			
					薬理薬剤学		2		感染看護論		1		生活学原論		2	
					健康障害と治療Ⅲ		2		EBN実習Ⅱ		2					
	情報管理法		1		健康障害と治療Ⅱ		2		EBN実習Ⅰ		1		多文化看護論Ⅰ		1	
疫学・保健統計		2		健康障害と治療Ⅰ		2		生活援助論Ⅱ		2		公衆衛生学		2		
												保健医療福祉行政論Ⅰ		1		
												多職種連携		1		
												看護研究方法Ⅰ		2		
1年次	食と健康		2		1-4年											
	ヒューマンケア概論		2		人間存在と世界観		2									
	法学		2													
	人間環境と生物科学		1		ケアと人権		1									
	信仰と文化		2		足と健康 基本		1									
	人間心理と人間行動		2		生命倫理		2									
	統計分析の基礎		1		病態生理学		2									
	英語Ⅱ		1		感染・免疫学		2									
	英語Ⅰ		1		社会福祉の基礎		1		フィジカルアセスメント		1		信州・佐久学		1	
	コンピュータの基礎演習		1		生活習慣と健康		2		看護展開論		2		地域生活者交流実習Ⅰ		1	
	表現技法Ⅱ		1		形態機能学Ⅱ		2		生活援助論Ⅰ		2		佐久の医療とケアの歴史		1	
	表現技法Ⅰ		1		形態機能学Ⅰ		2		看護基礎理論		1		国際事情と社会貢献		1	
													ボランティア・住民活動論		2	
													1-4年		野外活動論	
														人間関係とコミュニケーション		2
														導入基礎演習		2

\*1 必修科目はゴシック体で、選択科目及び自由科目は明朝体で示す。

\*2 カリキュラム全体のイメージを把握しやすくするため、1科目1配置とした。各科目には複数の目標・内容を含むので、詳細はシラバスで確認すること。

8. 佐久大学人間福祉学部 カリキュラムマップ

		DP7. 【倫理規範】 生命と心身を守るための他者への関心を高め、人の尊厳と権利を尊重した態度と行動がとれる。	DP2. 【幅広い教養】 多様な文化や社会の価値観を理解し、視野の広い人間性豊かな教養を身につけている。	DP1. 【ケアの専門知識】 人間福祉の理論や方法に関する知識を体系的に理解できる。	DP3. 【論理的思考】 社会や個人の《生命・生活・生涯》に関わる諸問題を多角的な視点から捉え、問題解決に向けた論理的思考ができる。	DP4. 【分析力】 現実的な諸課題を科学的な視座において分析し、俯瞰する能力を身につけている。	DP5. 【課題解決・応用力】 専門的な知識を活用し、地域課題の解決に向けた社会的支援ができる。さまざまな分野に応用・展開できる能力を身につけている。	DP6. 【相談・調整力】 個人や社会が抱える課題に対して、相談援助を通じて調整や協働ができる。	DP8. 【生涯学習】 人間福祉に関する知識と技術の向上に向けた生涯にわたり学修し続ける態度を身につけている。								
4 年次	4年間の学びを 総括する	【基盤教育科目】		【専門科目】					【自由科目】 ＜資格科目＞								
		3 年次	多様な領域で応用する 方法を学ぶ	【基礎科目】	【基幹科目】	【発展科目】		【展開科目】									
				【基礎科目Ⅰ】	【基幹科目Ⅲ】 ソーシャルワーク論Ⅴ	【発展科目Ⅲ. 生活環境教育群】	【発展科目Ⅰ. 福祉臨床教育群】	○卒業課題研究 ケア労働・職業論 ○地域包括ケア論 災害福祉論 ○CBL総合演習・実習 ヒューマンケア専門演習Ⅰ ヒューマンケア専門演習Ⅱ ◎社会福祉原論									
				○佐久の医療とケアの歴史 生活習慣と健康 ◎ヒューマンケア概論Ⅰ ◎生命倫理 ○食と健康 ○運動と健康Ⅰ ○運動と健康Ⅱ	福祉臨床論 ○保健医療福祉制度論 ○地域保健学 精神医学Ⅰ リハビリテーション論 司法福祉論 ソーシャルワーク演習Ⅲ 国際福祉論 ケア福祉行政論 ソーシャルワーク演習Ⅳ	社会環境ケア論 生活支援デザイン学 住環境ケア論、地域福祉論Ⅱ ケア環境デザイン学 福祉テクノロジー ケアのコミュニティ学 健康まちづくり論	児童養護論、臨床心理学 老年学、障害学 家族臨床学 ○認知症ケア論Ⅰ、老年心理学 精神保健ソーシャルワーク論 リスクマネジメント論 ソーシャルワーク論Ⅳ										
○ヒューマンケア概論Ⅱ ○ケアワーク演習・実習	【基幹科目Ⅱ】 ヒューマンケア調査実習、質的研究法、ソーシャルワーク論Ⅲ	【発展科目Ⅳ. マネジメント教育群】	【発展科目Ⅱ. 医療臨床教育群】														
2 年次	対象となる人の生活や 社会を理解する	【ひとつと社会生活】 消費と経済活動 契約と社会のルール ボランティア・住民活動論、個と集団	【ひとつと文化の多様性】 国際事情と社会貢献、多文化理解、文学 アジア事情、ジェンダー論、芸術学	【ひとつと情報】 情報管理法	【ひとつと世界】 英語Ⅰ、英語Ⅱ	○[ひとつと社会生活] 信州・佐久学	【ひとつと生命の広がり】 人間関係とコミュニケーション、ケアと人権 足と健康(基本)	【ひとつと情報】 コンピュータの基礎演習	○[学びと自己変容] 表現技法Ⅰ、入門演習 CBL実習Ⅰ、CBL実習Ⅱ	○ソーシャルワーク論Ⅰ ○ソーシャルワーク演習Ⅰ ヒューマンケア調査論、ヒューマンケア情報論 データ解析法、ソーシャルワーク論Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅱ	精神保健福祉論Ⅰ	○認知症ケア論Ⅱ 精神保健学Ⅰ 精神保健学Ⅱ 精神保健福祉論Ⅱ 医療支援ネットワーク論 ターミナルケア論 カウンセリング	○ソーシャルワーク論Ⅰ ○ソーシャルワーク演習Ⅰ ヒューマンケア調査論、ヒューマンケア情報論 データ解析法、ソーシャルワーク論Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅱ	○看護ケア論、◎福祉サービス論 ○多職種連携、生活援助学 社会保障論Ⅱ、○ヘルス・プロモーション論 貧困の福祉学Ⅱ、発達心理学	◎ソーシャルワーク論Ⅰ ◎ソーシャルワーク演習Ⅰ	精神保健福祉論Ⅰ	○ソーシャルワーク実習指導Ⅰ
1 年次	ヒューマンケア学の 基礎を学ぶ	○[ひとつと社会生活] 信州・佐久学	【ひとつと生命の広がり】 人間関係とコミュニケーション、ケアと人権 足と健康(基本)	【ひとつと情報】 コンピュータの基礎演習	○[ひとつと社会生活] 信州・佐久学	【ひとつと生命の広がり】 人間関係とコミュニケーション、ケアと人権 足と健康(基本)	【ひとつと情報】 コンピュータの基礎演習	○[学びと自己変容] 表現技法Ⅰ、入門演習 CBL実習Ⅰ、CBL実習Ⅱ	○高年齢福祉論Ⅰ ○児童福祉論Ⅰ ○障害の福祉学Ⅰ	◎心理学的 ◎社会学 ◎法学 (日本国憲法を含む) ◎経済学 家族社会学 ◎医学概論 基礎統計法 ◎生活学原論	◎高年齢福祉論Ⅰ ◎児童福祉論Ⅰ ◎障害の福祉学Ⅰ	◎人間福祉のコア科目 ○佐久ケアモデルに関連する科目					

## 佐久大学基盤教育センター規程

### (設置)

第1条 この規程は、学校法人佐久学園組織規程第1条の規定に基づき設置される佐久大学基盤教育センター(以下「センター」という)の組織及び運営等に関し、必要な事項を定めるものとする。

### (本学の基盤教育の方針とセンターの目的)

第2条 本学の基盤教育は、ひとや社会に対する理解を深め、幅広い視野と豊かな教養を培い、ヒューマンケアを学ぶ上で礎となる素養を身につけるための基礎力の育成を全学的に実施するもので、本センターは、その運営と教育の充実に資することを目的とする。

### (組織構成)

第3条 センターに、次の者を置く。

- (1) 基盤教育センター長
- (2) 基盤教育副センター長
- (3) 基盤教育科目を担当する教員(各学部・学科より)4から6名
- (4) 学生総合支援センター職員
- (5) 学長又はセンター長が特に必要と認めた本学教員若干名

### (センター教職員)

第4条 本センターの教職員は、学部・学科との兼任を原則とする。また、兼任教職員は、センター業務を連携協力して行う。

2. センター長は、合同教授会の同意を得て、学長が任命する。
3. 副センター長はセンター長の推薦に基づき学長が任命する。
4. 前条3項及び5項の教員は、本学の教員のうちから所属長の同意を得て、センター長が推薦し、学長が任命する。
5. 兼任職員は、事務局長の同意を得て、センター長が推薦し、学長が任命する。

### (任期)

第5条 前条に掲げる教職員の任期は、2年とする。ただし、第3条3項及び5項の教員の再任は妨げない。また、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(所掌事項)

第6条 会議は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 基盤教育の基本方針、運営体制及び組織に関すること。
- (2) 基盤教育のカリキュラム、単位数、履修方法、評価および、これらに関する全学的組織との調整と管理に関すること。
- (3) 基盤教育の教育内容の質の改善や充実に関すること。
- (4) 基盤教育の実施のための予算に関すること。
- (5) 基盤教育に係る独自の教育企画の立案、および実施に関すること。
- (6) 社会人基礎力に関する評価（外部の標準化テストを含む）の実施計画に関すること。

(センター会議)

第7条 センターの所掌事項を審議するためにセンターの構成員から成るセンター会議を置く。センター会議は、センター長が招集し、その議長をつとめる。議長はあらかじめ代理を定めておくことができるものとする。

2. 議長が必要と認めセンター会議で同意が得られたときは、本学の委員会等の委員長等の参加を求めたり、他の委員会と合同会議を設定したりすることができるものとする。

(事務)

第8条 委員会に関する庶務（議事録の保管含む）は、学生総合支援センターにおいて処理する。

(規程の改廃)

第9条 この規程の改廃は、合同教授会の議を経て、学園協議会が行う。

附則

令和5年4月1日より、施行する。

以上

## 佐久大学教務委員会規程

### (趣旨)

第1条 この規程は、佐久大学教授会運営規程第9条第1項の規定に基づき、佐久大学教務委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

### (所掌事項)

第2条 委員会は、学部の教育課程の全般的な進行を担い、次の各号に掲げる事項を所掌する。

- (1) 学年暦に関する事
- (2) オリエンテーション及びガイダンスに関する事
- (3) カリキュラムに関する事
- (4) 履修に関する事
- (5) シラバスに関する事
- (6) 非常勤講師の任用候補者の推薦に関する事
- (7) 単位認定に関する事
- (8) 科目等履修に関する事
- (9) 学籍異動に関する事
- (10) 学生の修学上の指導に関する事
- (11) その他、学部の教育に関わる必要事項

### (組織)

第3条 委員会は、教員4～7名、職員若干名をもって構成する。

- 2 委員は、学長と学部長が調整の上、教授会で選出する。
- 3 委員会内に部会を置くことができる。

### (任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。但し、再任を妨げない。

- 2 委員に欠員が生じたときには、速やかに補充するものとする。補充者の任期は、前任者の残任期間とする。

### (委員長等)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長は、教授会の同意を得て、学長が指名し、会務を総括する。
- 3 副委員長は、委員長が指名し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。

### (招集)

第6条 委員会は、委員長が招集する。

- 2 委員長は、次の各号のいずれかに該当するときは、委員会を招集しなければならない。
  - (1) 教授会から要求があったとき
  - (2) 学長又は学部長から要求があったとき
  - (3) 委員の過半数の者からの要求があったとき

### (会議)

第7条 委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ開くことができない。

- 2 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。
- 3 委員長は、会議の経過及び結果を教授会に報告しなければならない。

(委員以外の者の出席)

第8条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求めて、意見を聞くことができる。

(小委員会)

第9条 委員会は、必要があれば、委員以外の者を加えて、小委員会を置くことができる。

2 小委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(合同委員会)

第10条 第2条に定める所掌事項であって、全ての学部に通ずる事項又は全学的に調整が必要な事項を審議するため、合同委員会を置く。

2 合同委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(庶務)

第11条 委員会の庶務は、学生総合支援センター事務室が行う。

(補則)

第12条 この規程の運用、解釈等について、疑義が生じたときは、合同教授会において決定する。

(規程の改廃)

第13条 この規程の改廃は、合同教授会の議を経て、学長が行う。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

平成20年度は、委員の任期を1年とする。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から改正施行する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から改正施行する。

附 則

この規程は、令和5年4月1日から改正施行する。

大学等名	佐久大学
教育プログラム名	AI・データサイエンス教育・リテラシープログラム

申請レベル	リテラシーレベル
申請年度	令和6年度

## 取組概要

### <目的>

今日の社会で求められているAI活用能力、データ活用能力として以下の学修成果を目指す。

1. AIの仕組みを理解し、適切に活用するための知識や能力の修得
2. データ活用の有用性を理解し、適切に活用するための知識や能力の修得
3. セキュリティの観点から、AIやデータサービスに対する適切な態度を身に付ける

### <修了要件>

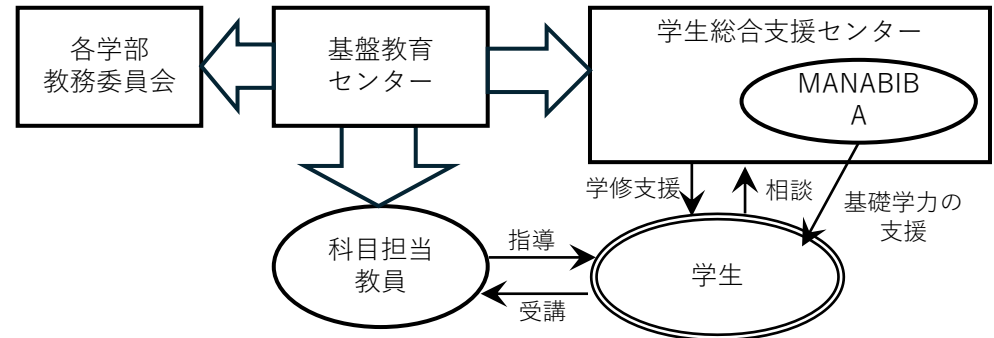
各学部で開講される下表の科目を履修をもって修了とする。

学部	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期
看護学部	コンピュータの基礎演習 (必修1単位)	統計分析の基礎 (必修1単位)	
人間福祉学部	コンピュータの基礎演習 (必修1単位)		基礎統計法 (選択2単位)

### <支援体制>

以下の組織・教職員が連携して修了の支援にあたる。

- 科目担当教員
  - ・ 本プログラムに該当する単元の指導
  - ・ 指導内容や評価方法を随時点検し必要に応じて改善
- 学生総合支援センター
  - ・ 受講生の受講状況の把握
  - ・ 修了認定に必要な情報の把握
  - ・ 学修支援サービス「MANABIBA」の運営
- 基盤教育センター
  - ・ 本プログラムの実施状況の把握
  - ・ 各学部教務委員会、学生総合支援センター、科目担当教員と連携して円滑な本プログラムの実践支援
- 各学部教務委員会
  - ・ 各学部のカリキュラムに基づいた本プログラムとの擦り合わせや調整

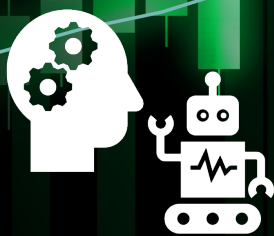




# AI・データサイエンス教育・リテラシー

## プログラム

今日の社会で求められている  
AI活用能力、データ活用能力の修得を目指します



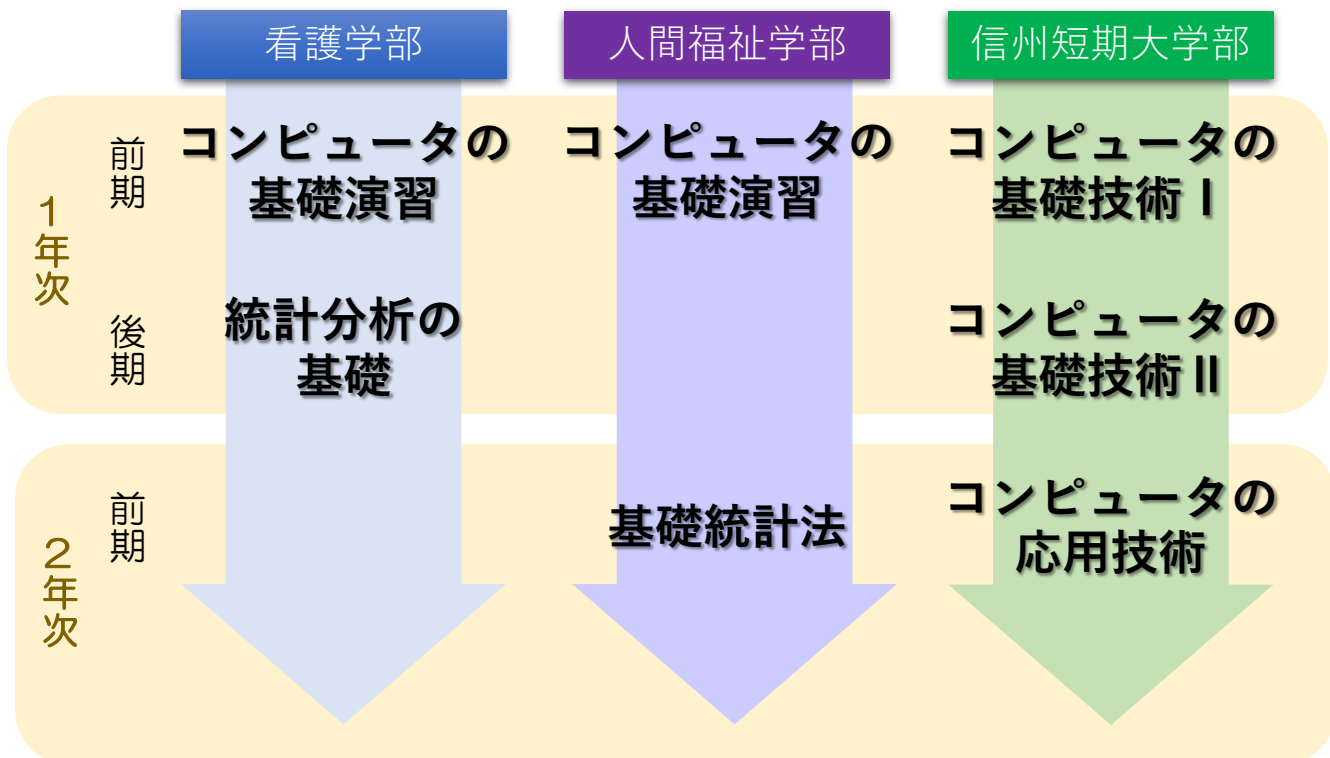
AIの仕組みを理解し、  
適切に活用するための  
知識や能力



データ活用の有用性を理解し、  
適切に活用するための  
知識や能力



セキュリティの観点から、  
AIやデータサービスに対する  
適切な態度



各学部ごとに開講される上記科目の履修・単位認定により本プログラムの修了を認定します

ご質問・ご相談はこちら

学生総合支援センター／基盤教育センター